

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校

学校番号 49

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>26 の「学校は、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。」という項目では、「あてはまる」と回答している保護者・生徒が78%（昨年81%、一昨年は75%）であった。校外実施の大学説明会やオープンキャンパスの案内等、進路情報の提供に努めた。本年度初めて校内での大学説明会等、進路意識の高揚を図るための行事等を実施したことも一因と思われる。</p> <p>27 の「学校は、生徒の進路希望に沿った適切な進路指導をしている。」という項目では、「あてはまる」と回答している保護者・生徒が79%（昨年77%、一昨年は74%）であった。1、2年生に対して進路指導部としてさらに担任・学年団をサポートして意図的、系統的な指導を実施していく必要がある。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学センターなし及びあり推薦入試の利用 ・土曜講座、補習、放課後センター演習の充実 ・「キャリア教育」の取組の充実 ・高大連携、校外行事への参加の促進 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、各教科、対外機関との連携強化 ・企画部、理数科部との連携による行事等への取組 	
6 目標達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定 あるいは指標	
①適時性を重視した進路情報の収集・分析・提供	①AO・推薦・一般入試、センター試験の結果分析	
②補習、サライ講座、センター演習、小論文・面接指導の充実	②模試や入試結果の分析と現状把握と対策	
③SSH及び総合的な学習の時間との連携	③SSH及び総合学習の推薦入試への利用	
④他校との連携及び高大連携講座・行事への参加	④高大連携講座や対外行事に参加した感想	
8 取組み状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①「進路ノート」の活用と進路資料室の整備	①適時性を重視した進路情報の収集と提供 ②補習や講座等の校内体制の確立 ③SSHや総合学習との連携 ④校外行事活動への参加	A (B) C D
②推薦・AO入試の小論文指導、面接指導の実施		A (B) C D
③全校科学講演会、学部学科別ガイダンス、職業講話、高大連携講座、名大入試研究講座、外科手術体験等の行事の実施		A (B) C D
④教員用「進路マニュアル」の作成と活用		A (B) C D
11 成果・課題	<p>○PTAと協力し、校内で大学8校の大学説明会を初めて実施した。放課後希望者対象であったが、生徒144名と保護者52名が参加した。また、無料送迎バスによる校外の進路ガイダンスを初めて実施し、28名の生徒が参加した。進路選択・検討の機会を提供することにより進路意識の向上を図ることができた。</p> <p>○平日及び長期休暇中の補習、土曜自主講座、一次・二次特編授業など、受験に向けての指導が教員の協力のもと一年間を通して実施でき、多くの生徒が参加した。</p> <p>▲「進路ノート」の活用が計画的でなく、意図性にやや欠けた。</p> <p>▲教員用「進路マニュアル」を作成はしたが、全職員に統一した意識を持たせ、統一した進路指導を実施するのに効果的・有効的であったかは疑問である。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ○「進路ノート」の意図的・系統的活用と1、2年生の「キャリアノート」の作成と計画的な運用。 ○教員用「進路マニュアル」の内容改善と統一性・系統性のある進路指導の充実と実践。 ○「受験は団体戦」のもと、放課後センター演習・2次対策の補習等の実施内容の検討。 		

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：平成28年2月9日

【意見・要望・評価等】

- ・ 恵那高生は大学卒業後に地元の戻ってくる生徒が少ない。大学卒業後、地元の企業で活躍してもらえよう地元企業と連携して模索していただきたい。
- ・ 生徒の将来の職業に向けての大学説明会や職業講話等、進路情報を提供し、進路意識を向上させるための取り組みがされている。
- ・ 学業で躓いている生徒に対するケア、対策を十分に行ってほしい。